

アウクスブルク市訪問

団長 尾田 勝重

出発に向けて

9月13日午後9時40分に関空に集合。11時40分発のエミレーツ航空317便に搭乗。尼崎市青年使節団はアウクスブルク市へ向けて出発しました。

しかし、私たちにとっての使節団は6月から始まっていました。5月に使節団の募集、6月に選考試験の実施、そして6月23日から出発までに合計9回の事前研修を行いました。



尼崎市の代表として訪問するため、単なる視察で終わることのないよう、初回のオリエンテーションに始まり、本市の魅力や歴史を学び、日本の伝統芸能にも触れるため、尼崎薪能も実際に鑑賞しました。また、前回の使節団OB・OGとの懇談、ドイツ領事館の方を招いてドイツについての英語でのレクチャー、そして、団員個々の調査研究項目に沿って現地で視察が行えるよう準備も行いました。

アウクスブルク市 到着

関空では滋賀県長浜市の青年使節団と合

流し、これ以降、同一行動をとりました。団員たちもすぐに打ち解けていきました。

現地時間で9月14日午後1時、私たちはミュンヘン空港に降り立ち、ドイツの地を踏みました。日本を出発して約20時間が経過していました。空港ではアウクスブルク市から職員の出迎えを受け、私たちはバスでアウクスブルク市へ向かいました。

アウクスブルク市へ向かうバスからの眺めは、日本であれば北海道の美瑛の丘のような丘陵が続いていて、屋外広告物が見当たりません。そして、道路照明灯のないアウトバーン。さっそく日本との違いを感じました。

アウクスブルク市内に入ると、電柱のない石畳の道路、中世のような街並みが今も保たれていることに驚かされました。この街並みは、第二次世界大戦後に再建されたものとのことでした。

ホストファミリーとのご対面

アウクスブルク市のレストランでホームステイの受け入れ家庭との対面を行いました。受け入れ家庭の皆さんは私たちが到着するのを笑顔で迎えてくださいました。団員はそれぞれの受け入れ家庭の待つテーブルを指示されて座っていきます。



受け入れ家庭は昨年度尼崎市を訪問したアウクスブルク市青年使節団の方が多く、昨年尼崎市で受けたもてなしを今回は自分たちが行うという気持ちが伝わってきました。団員たちの緊張と不安も消え、和やかな空気に包まれていきました。

アウクスブルク市表敬訪問

翌日は朝から姉妹都市提携のきっかけとなったヤンマー(株)が寄贈した「日本庭園」や社会福祉住宅の「フッゲライ」を見学してのち、アウクスブルク市表敬訪問に行きました。全員、昼からの表敬訪問を意識して、朝からスーツ姿での見学です。



表敬訪問の式典は、アウクスブルク市庁舎の「黄金の間」で行われました。

グリーブル市長は他の公務のため欠席されましたが、ケーラー教育長からこれまでの両市の青年使節団交流が続けられてきたこと、今後も、さまざまな分野で交流を進めていきたいことなどのお話をいただきました。

私の方からは、今年、尼崎市では、これ

まで交流の節目ごとにアウクスブルク市から頂戴した「マイルストーン」、「ガス灯」、「グリフィン」等の記念品を設置している尼崎市総合文化センター前の公園を「アウクスブルク広場」と名づけ、尼崎市民の皆様にアウクスブルクをより身近に感じていただけるようにしたこと。また、2年後の2016年、尼崎市が市制100周年を迎えるので、尼崎市で再会できることを願っていることなどを申し上げました。



市内施設の視察

市内見学で私が個人的に興味を持ったのは、アウクスブルク市の街並みです。先にも書いたように、アウクスブルク市は、市内にメッサーシュミットやMANの工場があったことから、第二次世界大戦で多くの建物が爆撃により破壊された。戦後、住民が破壊された瓦礫のなかから建材として使えるものを探し出して元の姿への再建が始まった。そのようにアウクスブルク市の職員が教えてくれました。



電柱のない石畳の道路、控えめな屋外広告、デザインや高さの調和がとれた建物、中世のような街並みが今も保たれています。その中を路面電車が走る。団員の一人が「ハリポッターの世界に来たみたい」と言っていました。日本と比較すると、本当に驚かされました。

市内施設の見学としてアウクスブルク大聖堂に行きました。この建物は当初10世紀始めにロマネスク様式で建てたあと、数百年後、手狭になったのでゴシック様式で増築したとのことでした。こちらでは、古いものを新しく建替えるのではなく、足りないものを付け足していくという考えを選択するようです。

日本の建物は木の文化です。また、地震も周期的に起こります。これらのヨーロッパの環境との違いが考え方の違いを生んだのか。西欧人は日本人よりも伝統や文化を大切にするのかなど、考えさせられました。



アウクスブルク市滞在中の訪問先は、アウクスブルク市職員が尼崎市の団員の視察希望を事前に聞きながら組み立ててくれたものです。今回の団員は将来教育関係の仕事に就くことを希望している者が多かったことから、学校訪問の希望が多くありました。そのような希望を考慮していただいか、アウクスブルク大学、幼稚園、ルドルフ・ディーゼル・ギムナジウムを見学先に加えていただくことができました。特に、ギムナジウムでは、授業見学まで許可していただいで感謝しております。

ただ、団員としては可能であれば、丸一日を学校見学にあててもらい、先生と話がしたかったし、生徒とも交流したかったようです。事前研修で団員個々の調査研究項目に沿って現地で視察や取材を準備していたのが不完全燃焼になった部分もありました。青少年使節団事業における調査研究をどう進めるのかは今後検討すべきと思います。



アウクスブルク市の施設見学としては、上記の教育機関のほか、市立新図書館 市立マーケット 尼崎市と長浜市が贈った日本庭園 プッペンキステ人形博物館 FC A サッカースタジアム モーツアルトハウスなどの盛りだくさんの内容でした。これらの施設を、観光バスに乗って行くだけでなく、路面電車に乗ったり、歩いたりして訪問しました。これらのことは観光旅行では味わえない体験だったと思います。



アウクスブルク市外の訪問

滞在中の訪問先としてはアウクスブルク市以外の施設も用意していただきました。キリスト受難劇で有名なオーバーアマガウ村 世界遺産のヴィーズ教会 ディズニーランドの城のモデルになったノイシュヴァンシュタイン城 そして今回初めての見学先となったダッハウ強制収容所でした。

訪問を終えて

アウクスブルク市での日々は、あっという間に過ぎ去りました。団員は10日間の滞在期間中、誰一人体調を崩すものもおらず、日々新たな発見の連続だったようで、私たちの予想を超えたおもてなしを受けたと感じています。来年度のアウクスブルク市青年使節団の受け入れに名乗りを上げた団員も現れました。

団員たちの今回の経験を個人的な経験に終わらせるのではなく、帰国後、この経験を他の人々に伝え、国際交流の拡大の役割を担ってほしいと願っております。

最後に、私たち使節団を温かく受け入れていただいたホストファミリーの皆様とアウクスブルク市民の皆様、そして、滞在中付きっきりでお世話をいただいた、エッガーさん デーゲさん サポロフスキーさん 原さん アルプレヒトさんに心からお礼を申し上げます。